
夕焼け

夕満

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夕焼け

【Nコード】

N4128U

【作者名】

夕満

【あらすじ】

黄昏時、独り歩いていた「私」はある青年と出会った。E
エブリスタに投稿していたものをこちらに移しました

呟いた言葉はひとりでに歩き、前を歩く青年へと届いてしまったようだった。

「寂しいの？」

「え？」

そうとも知らずに自分の世界へと浸っていた私は、異常に驚いてしまった。

「いや、君が寂しいと言っていたから…」

「え？ 私、口に出していました？」

「うん。僕の耳に聞こえてきたよ」

あまりの恥ずかしさに二の句が継げない。顔が熱くなるのが分かった。

誰に聞かせるつもりでもなく、ただ心の中で思っていた言葉。それが自分ひとりの言葉でなくなっていたとは…。

けれど、私の心は何故か落ち着いていた。もしかすると誰かに聞いて欲しかったのかもしれない。孤独に渦巻くその思いを。

「どうして、聞こえてしまったんでしょう？」

「うーん…。多分、僕と君が同じ光景を見ていて、同じ思いを抱い

ていたからじゃないかな？」

私の質問に青年はさらりと答えた。

同じ光景を見ていて、同じ思いを抱いていたから……。

これ以上説得力のある言葉はないのではないだろうか。不思議と私の心は波打った。

「じゃあ、あなたも一人なんですか？」

「…うん。この夕焼けを見て、悲しいと思えるほどにはね」

「この、夕焼けを見て……」

青年の顔を紅く染め上げる夕焼けの空を見つめた。夕陽はあまりにも眩しく、とてもじゃないが直視できない。

紅く紅い夕焼け色の空は、確かに悲しくなるような光景だった。彼と私はこの光景を共に見ていたのだ。同じ思いを抱いているとも知らずに。

それはとても幸福なことのように思えた。

孤独ではないと思わせてくれることだった。

「あの」

私は少しだけ勇気を出してみることにした。

これほどまでに幸せな充足感を与えてもらったのは初めてだったから、お礼を言いたかったのだ。そして、できることならば彼にもっと近づきたかった。

「ん？」

さきほどと変わらぬ穏やかな表情で、青年は私の言葉を待っていてくれる。焦らそうとするのではなく、ただ自然に言葉が出るのを待っていてくれる。

なんて不思議な出逢いだっただろう。

そう思いながら、やっと出てきてくれた素直な言葉で彼に語りかけた……。

（後書き）

結構前に書いたものです。

この続編…それもすぐ短いものですが、載せるのでよろしければ
ご覧下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4128u/>

夕焼け

2011年9月3日11時08分発行